



INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
会長：熊谷 健 副会長：井上 修 幹事：小椋文成 公共イメージ向上委員長：太田明良

	<p>2024-2025 国際ロータリーのテーマ ロータリーのマジック</p>	<p>2024-2025 RI会長 ステファニー A. アーチック ＜米国ペンシルバニア州＞</p>	
<p>第1729回例会 令和7年2月4日(火)</p>			

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 鈴木一比古副ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介

・米山奨学生 アミン, エムディ アル 様



■ 会長談話 熊谷健会長



先週は成年後見制度の話をしました。成年後見制度は、認知症や知的障害、精神障害のある方について、その能力を補うことによりその人の財産等の権利を擁護するための制度であることを話しました。

また、その制度は、「自己決定の尊重」「残存能力の活用」そして障害のある人も、地域や家庭で通常の生活をする事ができるような社会を作るという「ノーマライゼーション」の理念と、本人保護の理念を調和させるものであるということ、そしてその理念は DEI の理念とも相通じるものであるという話もしました。

今日は、そのノーマライゼーションの理念を明確にした、ある裁判の話をしたいと思います。成年後見制度にとって最も有名な判決です。

平成 25 年ですが、その裁判は成年被後見人（成年後見制度において援助される人を成年被後見人といいます。）である当時 48 歳の女性が、国に対して、成年被後見人にも選挙権があることの確認を求めたという裁判です。

当時の公職選挙法では「成年被後見人は選挙権や被選挙権を有しない。」という規定があつて、これは憲法違反ではないかと訴えたのです。

その女性は、知的障害を患っているものの、二十歳になった昭和 57 年以降ずっと選挙に行き投票してきました。ところが、平成 19 年に成年後見の申立てをして成年被後見人となったことにより、選挙権を剥奪されてしまったのです。裁判は、原告であるその女性の全面勝訴となりましたが、その判決理由が、成年後見制度に携わっている私にとって実に感動的なものでしたので、少し紹介したいと思います。

「・・・そもそも成年後見の審判を受け、成年被後見人になった者であっても、我が国の『国民』であることは当然のことである。（憲法が、国民の選挙権を、国民主権の原理に基づく議会制民主主義の根幹として

位置づけ、国民の政治への参加の機会を保障しているのは、自らが自らを統治するという民主主義の理念を実現するために、) 様々な境遇にある国民が、高邁な政治理念に基づくことはなくとも、この国がどんなふうになったらいいか、あるいはどんな施策がされたら自分たちは幸せかなどについて意見を持ち、それを選挙権行使を通じて国政に届けることこそが、議会制民主主義の根幹であり生命線である。」とし、続けて「我が国の国民には、望まざるにも関わらず障害を持って生まれた者、不慮の事故や病によって障害を持つに至った者、老化という自然的な生理現象によって判断能力が低下している者など、様々なハンディキャップを負う者が多数存在する。そのような国民も、本来、我が国の主権者であることは言うまでもないことであって、そのような国民から選挙権を奪うのは、まさに民主主義国家におけるプレイヤーとして不適格であるとして、主権者たる地位を剥奪することに他ならない。様々なハンディキャップを負った者の意見が、選挙権の行使を通じて国政に届けられることが憲法の要請するところである。」としています。

この判決を契機に、公職選挙法が改正され、成年被後見人にも選挙権が与えられることになりました。また、成年被後見人に対するほとんどの資格制限が撤廃されることになりました。

例えば、成年被後見人が株式会社の取締役になることや、司法書士や弁護士の仕事を行うこともできるようになりました。

自分に残された能力を活用するという、成年後見制度の理念を鮮明にした画期的な判決でした。

■ 慶 祝

2月誕生祝い

・田中洋会員 ・平澤理会員 ・角田泰隆会員 ・原一馬会員 ・宮原英幸会員



■ 米山奨学金の支給

・米山奨学生アミンさんへ熊谷会長より、ロータリー米山記念奨学会「2月分奨学金」が手渡されました。



■ ニコニコボックス

- ◆熊谷健 左目の白内障の手術を終えて不自由をしています。来週、右目の手術をします。手術が終わればゴルフボールも良く見え、ゴルフの腕も復活するかもしれません。コンペが楽しみです。
- ◆小椋文成 寒い日が続きます。まだまだインフルなども流行っているようです。皆様ご自愛下さい。
- ◆伊藤かおり アミンさん ようこそお越しくださいました。
寒の入りで本格的な寒さを感じる毎日です。体調に気をつけてお過ごし下さい。
- ◆池田幸平 土日に東京へ孫の顔を見に行きました。横浜ランドマークタワーに登り、忘れた下界を眺めてきました。駅で元会員の小原さんに会いました。以前は、会いたくない井上さんにも遭遇してしまいました (笑)

■ 委員会報告

・1月25日（土）～26日（日）伊那西IAC独自研修（伊豆研修）の報告

宮原英幸青少年奉仕委員長



研修日 令和7年1月25日（土）～26日（日）、1泊2日
 研修先 静岡県伊豆市修善寺
 研修目的 伊豆総合高校生徒の行う清掃活動参加
 参加者 生徒8名、顧問2名、ロータリアン1名（+運転手1名）

【経過】

1日目。25日午前7時、井上委員の見送りを受け、晴天の中予定通り伊那西高校を出発、途中乗車の生徒を乗せ、中部横断自動車道・新東名を經由して、11時過ぎに修善寺着。昼食後、伊豆半島ジオパークミュージアム（ジオリア）を見学。伊豆半島の2000万年に及ぶ壮大な成り立ちの説明を受ける。今もってフィリピン海プレートが沈み込んでおり、この動きが南アルプス（赤石山脈）の隆起にもつながっていることを学習する。



ガイドさんにより、修善寺の街中を散策する。寺は地元では“しゅうぜんじ”と呼ぶらしく、又漢字も“善”でなく“禅”を使う。開祖は807年弘法大師と言われる古刹。鎌倉時代に源氏一族興亡の舞台となった。その後禅宗（曹洞宗）となる。桂川兩岸に広がる街中は温泉街らしく足湯などもあり、静かな佇まい。文人も数多く訪れるまち。見どころも多く、散策は約2時間に及んだ。続いて明治日本の産業革命遺産韮山反射炉を見学し、伊豆長岡のホテルへ。

2日目。雲一つない快晴。8時過ぎ県立伊豆総合高校に到着。丘の上に立つ大きな学校であり、教室の窓から雪を頂く富士山を望む。生徒さんに案内され、徒歩で伊豆箱根鉄道修善寺駅広場に集合。伊豆総合高校主催の修善寺大掃除に参加（13年目？）。100人を超えるかと思われる若者らが集合、伊豆中央RCメンバーの方ともお会いし、開会式後4班に分かれてそれぞれの分担地域をバケツ・トング持ってゴミ拾い行う。



それにしても伝統的に月1回程度で実施してきているとのことに驚く。

部活単位でも参加している。2011年11月スタートした学校周辺美化と地域貢献を目的とする活動でふるさと貢献賞などの受賞もあり、全国的に認められた活動となっている。



約1時間で終了し閉式では感謝状をいただく。ゴミを高校に運び分別作業後、交流会（ロータリアン3名、沼津特別支援学校伊豆田方分校も出席される。）。自己紹介から学校紹介、昼食をともにし、工業科のものづくり交流では、グループに分かれアドバイス受けながら、レーザー加工機切断の部品類を使い、自転車形状に切り取られたキーホルダーを製作する。見事に完成。男子生徒も

多い中面白い交流企画であった。午後2時半ころ出発し、沼津魚市場を經由して午後8時頃伊那西高校に無事到着する。



【総括】

初めてIACの地区外交流に出席したが、普段交流のない地域の高校生の生活の一端を見、また現地高校に於て交流ができたこと、また、観光客も多く訪れる地域での駅周辺清掃を若い高校生が続けてきている事は素晴らしい活動だと感銘した。名刺交換したロータリアン：原田会長、望月幹事、長友氏、小野氏、柴田氏。

・1月26日（日）RLIパート1の報告 加藤篤副幹事



1月26日 塩尻市市民交流センターえんぱーくで開催された RLI の研修会に行ってみました。

RLIはThe Rotary Leadership Institute の略ということも知らなかったわけですが、参加さえすれば何とかなるだろう精神で参加しました。

今回は1回目ということでグループ分けはロータリー入会歴が同じぐらいの皆様と一緒にとなりました。

すでに参加された方は充分ご存じだと思いますが、朝から夕方までの六コマのグループ単位での話し合い研修を行いました。

私が参加したグループは私含め9名で構成されておりロータリークラブでの立場は次年度幹事や会長エレクトですが、ロータリー歴は1年から5年ぐらいの皆さんの集まりですので、さほどロータリークラブについて詳しくはなく、午前中はよそよそしい感じの話し合いでしたが午後はそれぞれうちとけて少し本音に近い部分で話し合うこともできました。

今回は1回目ということで皆様にご報告することはさほどございませんが、次回以降より踏み込んだ話し合いになると思いますので楽しみにしております。

・「ロータリーの友」2月号紹介 鈴木一比古会員



2月号の表紙は開いて見ると、バレンタインボックスの絵になることを紹介。

2月は平和構築と紛争予防月間である事を周知。

ジョージ・武井さんの差別、闘い、そして未来への夢の紹介。

第53回ロータリー研究会のレポートから第4セクションを紹介。

地区大会略報から第2600地区を紹介。

につぼんふうど、の記事の紹介。

映像ディレクター・作家 渡辺 考氏の「言葉を守るテレビディレクターの考える戦争」記事を紹介。

■ 出席報告	会員数44名	出席免除会員5名	長欠会員1名	本日出席者25名	事前メイク3名
	出席率73.68%	前回出席率	修正なし		

■ 理事会報告 小椋文成幹事

1. 新会員の推薦について
2. 会報用スマートフォン端末（デジカメ兼用）の購入について
3. 伊那英語ガイドクラブへの支援について
4. ロータリーポケットノート作成について
5. 2月の行事予定並びにメイクアップ扱いについて
6. その他

■ 点 鐘 13:30

次回例会

2月18日（火） 点鐘／12:30 場所／海老屋料理店

・クラブフォーラム「国際奉仕委員会」

・例会終了後：理事会